

第 6 回 CALNA 運営委員会議事録

2021 年 3 月 25 日（木）16:00-17:00 Teams 会議

参加者（敬称略）

◎運営委員：齋藤竜太、平田仁、曾根三千彦、亀井譲、木山博資、芳川豊史、西脇公俊、石井晃、藤原道隆

○運営委員：荒木芳生、棚橋邦明、宇田憲司、横山欣也、小林和克、神戸未来、山本美知郎、西尾直樹、宮田一志、寺澤幸枝、中村彰太、和氣弘明、宮田卓樹、高木佐知子、高田浩平、石川宗史

実務委員長・脳神経外科・荒木より挨拶

議題 1. 運営委員長・運営委員変更について（脳神経外科・荒木）

- ・運営委員長：脳神経外科・若林教授退職以降、実務委員長・脳神経外科・荒木が代行。本日より、脳神経外科・齋藤教授就任。
- ・運営委員：整形外科・今釜教授、腫瘍外科・江畑教授、小児外科（新規参入）・内田教授就任。
- ・実務委員：新規参入の小児外科から檜先生参加。

以上承認を得た。

新運営委員長・脳神経外科・齋藤教授より挨拶。

議題 2. 参加診療科追加について（脳神経外科・荒木）

議題 1 の通り、小児外科が新規参入。

議題 3. R2 年度 CALNA セミナー開催報告（脳神経外科・宇田）

- ・今年度前半はコロナの影響でセミナー開催なし。後半は 10 月以降、計 6 回のセミナーを開催した。
- ・各診療科で均等に利用いただけるように配慮している。利用頻度が少ない診療科も積極的にご利用いただきたい。
- ・セミナー開催に関する各科の要望を確認：特になし。

議題 4. R2 年度会計報告（脳神経外科・宇田）

- ・厚労省の委託費を獲得し、後半セミナー開催に使用した。
- ・その他消耗品、解剖室のカビ対策（ダクトの結露）工事費、ご遺体管理費（搬送費用等）、開頭機に使用。
- ・病院予算については参加費徴収も開始となり、8 割の残額あり。CALNA として概ね自立

運営できている。

(脳神経外科・荒木)

次年度も予算獲得を目指す。

(脳神経外科・宇田)

- ・前述の通り解剖室廊下天井にカビ対策工事を要した。
- ・普段からセミナー実施時の清掃をこころがけていただいているが、カビ発生予防のためさらに徹底いただきたい。
- ・セミナー参加費徴収開始に伴い、セミナー開催時の必要書類のフォーマットを変更した。

以上承認を得た。

議題 5. R2 年度東海国立大学病院機構 CST ネットワーク事業報告 (脳神経外科・横山)

- ・昨年度より文科省予算にて実施。連携校とともに大学院生を対象にセミナーを開催。Sinet 5 を用いた遠隔相互通信を利用。大学院単位として認定、単位互換を実施。
- ・今年度は浜松医大外科、浜松医大脳神経外科、名大脳神経外科にてセミナーを実施。
- ・昨年度は名大のみでプレセミナーを実施し参加者計 20 名 → 今年度参加者計 55 名に拡大。
- ・R3 年度が事業最終年度。セミナー未開催の診療科にぜひ参加いただきたい。

(荒木)

事業終了後も運用継続を目指している。

以上承認を得た。

6.その他

(解剖学・木山)

- ・日頃のご遺体や設備に関わる対応に感謝している。
- ・ご遺体保管庫に余裕が出てきており、ご献体を受け入れていきたい。

(脳神経外科・荒木)

- ・来年度にはご遺体保管用冷蔵庫を購入予定。
- ・セミナーによる学習効果を高めるため、CST の動画アーカイブ化を進めていく。

(呼吸器外科・芳川)

・呼吸器外科にてこれまで2回セミナー開催した。正常解剖が確認でき、臨床で実施頻度の少ない手術を若手に学ばせることができ、大変有意義に感じている。

・セミナー後の清掃について徹底していく。

(脳神経外科・荒木)

・ご遺体固定状態はどうか。

(呼吸器外科・芳川)

・肺の柔軟性が低く、血管が虚脱しているため、胸腔鏡下手術のために改善の余地はある。

(脳神経外科・荒木)

・今後の固定法の工夫や研究を行っていきたい。

・今週末に木山教授により開催される日本解剖学会総会のシンポジウムにて CALNA として発表を予定。「臨床医からみた CST 継続のための課題」の発表内容を提示。

(解剖学・木山)

すばらしい発表になる。ありがとうございます。